

# 関東大地震時の応急対応とその教訓

今から86年前に発生した1923年関東大地震は、海溝型地震であると同時に直下地震としての特性も有していました。そのために、津波、地盤災害、建物被害、そして火災被害と実に様々な被害様相を呈し、焼失住家45万戸、10万を越す死者など甚大な被害が生じました。当寄付講座では、第2回公開セミナーにおいて「関東大地震についての新しい知見とそこから得られる教訓」を主題として、主に被害の実態や地震の特性に焦点を当てて講演と討論を行いました。

そこで今回は、内閣府の「災害教訓の継承に関する専門調査会」による『1923関東大震災報告書第2編』の発行を期に、震災発生直後の応急対応について、国や地方機関などの対応の担い手別に震災に際しての動きを中心に、執筆に携わった各専門の方からご講演いただくとともに、今後に向けて学び取るべき教訓や課題について討論を行うことを目的として、下記の要領で公開セミナーを開催することに致しました。つきましては、ぜひ多くの方にご参加頂きますようご案内申し上げます。

後援：東京大学GCOEプログラム  
「都市空間の持続再生学の展開」S1部会

2009.09.11(金)  
13:30-17:00(13:00開場)  
東京大学山上会館大会議室

■ 日時  
2009年9月11日(金)13:30-17:00

■ 会場  
東京大学山上会館大会議室

■ 参加  
定員 100名程度  
参加費 無料

■ お問い合わせ  
東京大学大学院都市工学専攻関沢研究室  
助教 廣井 悠  
<http://www.fse.t.u-tokyo.ac.jp/index.htm>  
MAIL:shobo@fse.t.u-tokyo.ac.jp  
FAX:03-5841-7327  
お申し込みはメールもしくはFAXでお願い致します



■ プログラム  
13:30 開会(開場13:00)  
13:30-13:40 開会の挨拶  
関澤 愛 東京大学大学院工学系研究科 特任教授  
13:40-14:25 軍隊の応急対応とその背景  
吉田 律人 横浜市史資料室  
14:25-15:10 被服廠跡での救護活動  
鈴木 淳 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授  
15:10-15:55 震災の教訓と市民の組織化  
土田 宏成 神田外語大学 准教授  
16:05-17:00 パネルディスカッション  
司会 北原糸子 立命館大学歴史都市防災センター教授  
17:00 閉会